



昨年十一月税を知る週間の行事として、大月税務所、東部県税事務所、都留市などの主催による税の弁論大会が市役所大会議室で行われ、その結果都留市長賞に選ばれた杉山真澄さんの内容を紹介します。

### 税金と幸福

東桂中学校 三年

杉山 真澄

もし、あなたが「幸せですか。」ときかれたらどう答えますか。私は、まよわず「とても幸せです。」と答えるでしょう。いつもは、やさしいのですが時には厳しいサラリーマンの父。口うるさくて私のケンカ相手でもあります。一番の相談相手の母。高校三年の兄は、私とあまり口をききませんが、いとこの時頼りがいがあります。小学五年の妹はいつも無邪気で私とケンカが絶えません。この四人に私をふくめた五人での生活は、ささいないさかいはありますが、ごく平穏であたりまえのように幸せなのです。この我

家のしごく平凡で幸せな生活にとって、税金とはいったい何なのでしょう。私なりに考えてみました。会社員の父は、給料から所得税や住民税をひかれています。お酒も飲むので、酒税という間接税も払っています。車も日常の足としてかかせないので、それにも物品税や、重量税がかかっています。これ以外にも、家や土地、テレビやステレオ、ピアノ、そして私が持っているトランプにさえ税金がかかっています。我家が納めている税額も、けっして少なくありません。時々父や母が税金が高いなどと話しているのを聞いてみると、何故こんなに税金をとられるのだろうと思ひ、正直言って私は、税が好きなわけではありません。父が一生懸命働いてかせいだお金を、強制的にもっていただきます。税金なんてなければいいのに。」と怒っています。でも、学校で『わたしたちの生活と税金』という本をわたされ、税の勉強を私なりにしてみても、税金とは本当は、大切なものなのだと思うようになりました。少し古いので

すが昭和五十六年度の資料によると、小学生一人に国や地方公共団体が負担している教育費は、四四七、〇〇〇円、中学生は五四九、〇〇〇円、高校生にいたっては六四一、〇〇〇円になるのだそうです。私はおどろいてしまいました。私と小学生の妹と高校生の兄と、私たち三人にかかる教育費だけで、我家が納める税額よりはるかに多いのです。そして、それ以外にも、ゴミや尿の処理、水道、公園などの建設に税がかかわれているそうです。冬、冬の道路の除雪にも税金がつかわれているのです。もし、水道がなかったら、ゴミや尿も各自が好き勝手に川などに捨てていたら、公園やその他の施設がなかったら、冬の大雪が道路からなかなか消えなかったら、と考えれば今の私の幸福も、もつと違ったかたちのものになってしまうのではないかと思うのです。税金は私たちの生活に密接に結びついた、なくてはならないものです。そして、私たちのより一層の生活の向上をめざしたものであります。私は、歴史の授業で学んだことを今思

い出しています。それは、遠い昔からの税の歴史のことです。大化の改新の頃から、租庸・調と三種を中心とした税があり、人々は米・布・各地の特産物を納めていました。そして武士の支配する時代には年貢といって米で税を納めていました。昔の税は、政治を行う者が民衆を自分に奉仕させるものとみられて、人々の幸福のために使われることは、ほとんどありませんでした。いくら納めても、さらに要求される、重税・酷税に人々は、苦しめられていました。今日、税は支配の道具ではありません。私たちが国民が、健康で暮らせるように、安全に暮らせるように、清潔に暮らせるように、すべての国民が幸福に生きてゆくために、税は使われています。たとえ現在も、強制的に徴収されていても、それは、私たちの幸福を達成するために使われているのです。何故なら、それが、民主主義国家、日本の目標だからです。五十八年度、国の一般会計予算は、五十兆三、七九六億円であります。そしてその六四・一％が国民